

# 令和元年度公益財団法人ふくしま海洋科学館事業報告書

## 【事業総括】

令和元年度の入館者数は、533,459人と前年比94.7%となりました。夏休みや冬休み期間を中心に、好調な入込があったものの、10月の台風や3月以降のコロナ禍による影響を大きく受けた形となりました。

令和元年度においても、基本理念と展示のシナリオを堅持しつつ、自然とのふれあい、味覚を含めた五感に訴える体験プログラムなどを実践して、自然への扉を開く体験的学習の場の提供に取り組みました。

また、展示の充実を図るために、水生生物保全センター機能を十分に生かし、採集及び飼育が困難とされる魚類等の繁殖研究や、ラブカを初めとする深海性魚類の飼育実験を行いました。

また、しばらく中断していたインドネシアシーラカンス ROV 調査について、現地の研究機関の協力により調査許可を取得し、調査準備を進めました。

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館では、福島県内の希少淡水魚の保全活動及び参加体験型の水族館として教育普及活動事業を展開しました。新たにカワガラス、カワセミの展示を開始しました。また、1号館2階を木育キッズコーナー「森のこぼこ」に改修しました。

- 1 親潮アイスボックスでは、ニュウドウカジカやオオメンダコ、ハゴロモコンニャクウオ等他の水族館では見ることができない生物の展示を行いました。
- 2 水生生物保全センターでは、東海大学との共同研究としてラブカはじめとする深海性魚類の飼育実験を行いました。また、ラブカミーティングもおこないました。この他、水生生物保全センター串本分館を活用して飼育困難生物種の魚卵の採取を行いました。
- 3 県内希少淡水生物であるシナイモツゴやゲンゴロウ類などの繁殖を行いました。また、域内保全の基礎資料としての県内淡水生物の生息地調査を行いました。
- 4 ユーラシアカワウソが3個体を出産し、「令」「和」「元」と命名しました。
- 5 熱帯アジアの水辺において、世界最大の蘭「タイガーオーキッド」を開花させることができました。
- 6 わくわく里山・縄文の里に里山を代表する動物であるホンダヌキの雌雄を新たに展示しました。
- 7 友好提携園館である新潟市水族館との ROV を使ったアカムツ調査や生物交換を行いました。
- 8 しばらく中断していたインドネシアシーラカンス ROV 調査について、現地の研究機関の協力により調査許可を取得し、調査準備を進めました。

- 9 海洋生物の放射能汚染調査に取り組み、その結果について館内展示において情報提供を行いました。また、金沢大学、木戸川漁業協同組合との共同調査を継続して行いました。
- 10 学校教育を支援するための館内学習プログラムや移動水族館を開催し、当館の学校利用の促進を図るとともに、館内の常設プログラムとして命の教育の場である釣り体験や、漁業関連体験プログラムである缶詰製造体験、かつお節削り体験を開催して、生涯学習施設としての機能を充実させました。
- 11 山川海の好循環を象徴するシンボルとして、また、林業振興を目的として、おまつり広場の伝馬船工房において「地球2号」の製作を行いました。さらに炭焼き窯「たろうがま」では3回炭焼きを行い、ショップで販売をしました。
- 12 誘客と来館者サービス向上のため、さまざまなイベントや企画を実施しました。
- 13 いなわしろカワセミ水族館では、11月16日からゲンゴロウの仲間では世界最大種である、オオサマゲンゴロウモドキ（ラトビア共和国より搬入）の飼育展示を開始しました。

【事業内容】

I 公益目的事業

1 飼育展示事業

(1) 水槽展示及び生物の飼育状況

令和元年度末時点での展示は以下のとおりである。

① 水槽数

本館		113槽
B I O B I Oカッパの里		1槽
蛇の目ビーチ		1槽
わくわく里山縄文の里		2槽
アクアマリンえっぐ		28槽
金魚館		8槽
合計		153槽

② 生物の飼育状況

哺乳類	12種	104点
鳥類	7種	44点
爬虫類	6種	7点
両生類	11種	466点
魚類	429種	18654点
昆虫	12種	114点
無脊椎	297種	20996点
植物	500種	約20000点
金魚	61品種	882点
合計	1274種	60385点
	61品種	882点

## (2) 生物収集事業

展示生物(水生生物、陸上小動物及び植物)採集、購入・輸送

- ① 淡水生物採集  
オイカワ、イトヨ他県内生物採集・熱帯生物購入
- ② 沿岸生物採集  
福島県水産試験場調査船乗船採集、深海生物  
福島県松川浦採集・小名浜サンマリーナ アマモ、ギンポ類他
- ③ 北方系生物採集：北海道オホーツク海沿岸  
ハダカカメガイ、ナメダンゴ、オオメンダコ、オオグチボヤ等深海性生物
- ④ 南方系生物採集  
メバチ、マイワシ
- ⑤ サンゴ礁、マングローブ生物収集  
熱帯魚やコモチサヨリ等
- ⑥ 植物：県内採集でシュンラン等・ラン(購入)
- ⑦ ユーラシアカワウソ繁殖(雄1頭、雌2頭)

## (3) 南方系生物蓄養事業

メバチ、キハダを蓄養・輸送・搬入(奄美大島)

## (4) 水生生物保全センター運営事業

- ① 飼育困難生物の研究(串本分館)
- ② シナイモツゴ、ゲンゴロウ等の繁殖研究
- ③ 駿河湾ROV調査
- ④ サンマやラブカ他の飼育調査研究

## (5) 飼育生物管理事業

本館、えっぐ、水生生物保全センター、屋外施設の動植物展示及・飼育管理

## 2 移動水族館事業

主催者要請に応じ、移動水族館専用車(通称:アクアラバン)を派遣し、各地域・施設のイベント等に出展。

海の生物に親しむ機会を提供し、当館への興味、関心を高めてもらうことと併せて、開催地の地域振興に貢献。

## 3 研究交流事業

### (1) 学会・研究会等

- ① 令和元年6月23日  
「Eurasian otter's Original Nursing Behavior Extracted by exhibition enclosure that recreated the natural habitat. International Conference of Educational Enrichment」(口頭発表)
- ② 令和元年9月21日  
「水中映像によるインドネシアシーラカンス *Latimeria menadoensis* の個体識別」日本魚類学会年会(ポスター発表)

- ③令和元年 10 月 18 日から 20 日  
「飼育下におけるラウスブドウエビの雄性突起の形成」甲殻類学会（ポスター発表）
- ④令和元年 11 月 9 日  
「生息環境を再現した展示で出現したユーラシアカワウソの哺育行動」  
第一回動物園ランドスケープ会議（口頭発表）
- ⑤令和元年 12 月 14 日、15 日  
日本動物園水族館教育研究会を事務局として開催  
場所：東京大学大気海洋研究所 参加者数 160 名
- ⑥ 令和元年 12 月 17 日  
「水族館で学習？だってレジャー施設でしょ」  
東京大学大気海洋研究所共同利用シンポジウム『水族館における教育とアウトリーチ活動。現状と展望。』にて口頭発表
- ⑦ 令和 2 年 1 月 15 日  
「飼育下におけるダイオウキジンエビ *Selerocrangon rex* の初期発生形態について」甲殻類学会誌（掲載）

#### 4 海洋文化推進事業

##### (1) シーラカンス保全プロジェクト

- ①新規調査地点予備調査  
アチェ州ウェー島
- ②ジャカルタ日本人学校講義  
シーラカンス調査、深海魚の生態等を小 2～中 3 に講義（協力：東大大海研  
猿渡先生）
- ③研究論文発表 3 件

#### 5 企画営業事業

##### (1) 企画管理事業

接客や案内誘導等の業務委託、年間パスポート販売等（来館者サービス向上）

- ①券売・受付業務委託  
券売・改札業務（専門業者委託で接客・質向上）
- ②年間パスポート販売
  - ・入館者数の増加を目的に販売
  - ・通常販売、福島県子育て応援パスポート事業（協賛）やプレゼント等の割引販売を展開
  - ・令和元年度販売実績
 

一般	5, 016 枚	（平成 30 年対比	88.7%	637 枚減）
小～高	1, 298 枚	（平成 30 年対比	84.9%	230 枚減）
計	6, 314 枚	（平成 30 年対比	87.9%	867 枚減）

## (2) 広報宣伝事業

県内外に一層アピールしながらイベント開催告知、誘客促進を行うとともに、首都圏も含め各種媒体で積極的な広報宣伝活動を展開し、パブリシティによる紹介の増加を図った。

### ① 各種媒体等を活用した広報

#### ア テレビCM放映

GW向け： 県内3局、宮城2局、ラジオ1局

夏休み向け： 県内4局、宮城2局、ラジオ2局

年末年始向け： 県内4局、宮城1局

#### イ 新聞広告

地元3紙へ観光シーズンに広告掲載。

地元2紙で記事連載。

#### ウ 雑誌広告等

GW・夏季・年末年始に地元フリーペーパーおよび情報誌に広告掲載

#### エ 看板

福島空港に広報看板掲出

#### オ Web

GW・夏季 Google、Yahoo、Facebook ヘディスプレイ広告掲載

#### カ その他

・県内外の新聞、情報誌にパブリシティ活用の広報活動と Web 旅行情報サイト等への掲載

### ② ポスター・パンフレット等の作成・活用

#### ア 館内案内リーフレット

・館内案内リーフレットを来館者に配布

・県内外観光施設、旅行エージェント、公共施設等に配布

#### イ イベントチラシ・ポスター

・展示のリニューアルおよびイベント開催に合わせチラシ・ポスターを作成、県内外の公共施設、観光施設等に配布・掲出

・市内・北茨城地区への新聞折り込みを実施

#### ウ 広報用チラシの作成

・年間を通じた広報用にチラシを制作、移動水族館等で配布

#### エ ファクトブック

施設の概要をまとめたファクトブックを作成しメディアに配布

### ③ 広報イベントの実施

来館者サービス向上と広報を目的としたイベントの実施

#### ア 宇都宮動物園・アクアマリンふくしま 友好提携調印式

平成31年4月20日(土) ※宇都宮動物園にて実施。

#### イ 世界カワウソの日イベント

令和元年5月29日(水)～9月1日(日)

当館で撮影したユーラシアカワウソの写真を募集し、入賞作品を展示。

ウ ユーラシアカワウソ名前募集

令和元年7月19日(金)～8月2日(金)

令和元年9月7日(土)に命名式を実施。「令(れい)」「和(なごみ)」「元(はじめ)」と命名。

エ 南極の氷贈呈式

令和元年8月23日(金)

海上自衛隊砕氷船「しらせ」が持ち帰った南極の氷の贈呈式

オ 流行魚大賞2019投票

令和元年10月5日(土)～10月27日(日)

展示している魚の人気投票。最も人気の高かった魚を流行魚大賞として11月24日に発表。

カ パネル展「一挙終結!!オロロンをまもる仲間たち」

令和元年12月28日(土)～令和2年2月29日(土)

④ アクアラバンを活用した営業・広報宣伝

移動水族館専用車両(通称:アクアラバン)により県内外のイベントに出展し、営業活動・広報宣伝を実施した。

・令和元年度実績

出勤回数(出展数)12回(平成30年度比 80.0% 3回減)

見学者数25,698人(平成30年度比 88.0% 3,502人減)

減少理由:10月の台風被害により多くのイベントが中止になったため

⑤ キャラクター「権兵衛」PR

館内で来館者サービス・移動水族館や県外観光PR実施

⑥ 地域連携企画

環境や文化について発信する企画を協同で実施。

・伝統野菜マルシェ(共催:いわき市農業振興課)

・海洋環境保全プロジェクト(主催:福島中央テレビ)

・火災予防啓発運動(共催:小名浜消防署)

・おでかけアリオス(共催:いわき市芸術文化交流館アリオス)

・未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール

(3) 観光誘致事業

① 地元旅館ホテル等の販売実績

ア 契約宿泊施設等宿泊者限定チケット(地域連携チケット)

・いわき市周辺の契約宿泊施設等限定の入館券を販売

・契約宿泊施設等・・・12か所(2組合、1グループ、9施設)

・令和元年度実績

一般 24,745枚(平成30年対比 108.7% 1,990枚増)

小～高 6,136枚(平成30年対比 110.8% 596枚増)

計 30,881枚(平成30年対比 109.1% 2,586枚増)

イ 入館前売券販売

・令和元年度実績

一般 8, 443枚 (平成30年対比 103.7% 302枚増)

小～高 1, 806枚 (平成30年対比 99.4% 11枚減)

計 10, 249枚 (平成30年対比 102.9% 291枚増)

② 送客実績

ア 個人(通常料金)

・令和元年度実績

一般 172, 443人 (平成30年対比 87.8% 23,899人減)

小～高 40, 037人 (平成30年対比 91.3% 3,803人減)

計 212, 480人 (平成30年対比 88.5% 27,702人減)

イ 団体(団体料金)

・令和元年度実績

件数 767件 (平成30年対比 75.7% 246件減)

一般 15, 936人 (平成30年対比 79.4% 4,138人減)

小～高 2, 144人 (平成30年対比 66.1% 1,099人減)

計 18, 080人 (平成30年対比 77.5% 5,237人減)

ウ 契約宿泊施設等宿泊者限定チケット(地域連携チケット)

・令和元年度実績

一般 24, 290人 (平成30年対比 107.9% 1,785人増)

小～高 5, 823人 (平成30年対比 109.8% 522人増)

計 30, 113人 (平成30年対比 108.3% 2,307人増)

エ 入館前売券

・令和元年度実績

一般 7, 702人 (平成30年対比 97.9% 166人減)

小～高 1, 668人 (平成30年対比 93.9% 109人減)

計 9, 370人 (平成30年対比 97.1% 275人減)

オ 年間パスポート

・令和元年度実績

一般 31, 924人 (平成30年対比 84.0% 6,066人減)

小～高 6, 245人 (平成30年対比 78.3% 1,729人減)

計 38, 169人 (平成30年対比 83.0% 7,795人減)

カ 年間パスポートの提示割引

・当館の年間パスポートの提示で割引

(1枚の提示で5名まで 一般200円引 小～高100円引)

・令和元年度実績

一般 2, 473人 (平成30年対比 90.8% 252人減)

小～高 627人 (平成30年対比 88.4% 82人減)

計 3, 100人 (平成30年対比 90.3% 334人減)

キ 障害者

・令和元年度実績

一般 12, 721人 (平成30年対比 92.5% 1,027人減)

小～高 2, 260人 (平成30年対比 104.0% 89人増)

計 14, 981人 (平成30年対比 94.1% 938人減)

③ 減免入館実績

ア 学校団体

・令和元年度実績

件数 425件 (平成30年対比 89.3% 51件減)

人数 23,070人 (平成30年対比 102.2% 490人増)

イ 幼稚園又は保育園団体

・令和元年度実績

件数 205件 (平成30年対比 98.6% 3件減)

人数 1,320人 (平成30年対比 99.5% 7人減)

※人数には、園児の数は含まない

ウ 市町村主催団体

・令和元年度実績

件数 35件 (平成30年対比 100.0% 増減なし)

人数 966人 (平成30年対比 123.5% 184人増)

エ 財団主催団体

・令和元年度実績

件数 2件 (平成30年対比 33.3% 4件減)

人数 64人 (平成30年対比 36.8% 110人減)

④ コンビニチケット

・令和元年度、コンビニチケット全体の入館者数は、13,093人  
(平成30年度対比 117.4% 1,941人増)

ア 通常チケット(販売額 一般1,750円 小～高850円 通年販売)

・令和元年度実績

一般 6,792人 (平成30年対比 107.5% 476人増)

小～高 3,019人 (平成30年対比 124.2% 589人増)

計 9,811人 (平成30年対比 112.2% 1,065人増)

イ ラブカップルチケット

(一般2人分のペアチケット3,500円 期間限定販売)

・令和元年度実績

ペア券 1,641枚 (平成30年対比 136.4% 438枚増)

人数 3,282人 (平成30年対比 136.4% 876人増)

⑤ 助成券利用実績

・令和元年度、助成券全体の入館者数は1,089名  
(平成30年度対比 89.2% 132人減)

ア 福島県職員助成券

・令和元年度実績

一般 221人 (平成30年対比 81.0% 52人減)

小～高 31人 (平成30年対比 70.5% 13人減)

計 252人 (平成30年対比 79.5% 65人減)

イ 福島県教職員助成券

・令和元年度実績

一般 306人 (平成30年対比 105.2% 15人増)

小～高 92人 (平成30年対比 90.2% 10人減)

計 398人 (平成30年対比 101.3% 5人増)

#### ウ 私学職員助成券

##### ・令和元年度実績

一般 325人 (平成30年対比 83.8% 63人減)

小～高 83人 (平成30年対比 85.6% 14人減)

計 408人 (平成30年対比 84.1% 77人減)

#### エ 山形利用補助券

##### ・令和元年度実績

一般 22人 (平成30年度対比 91.7% 2人減)

小～高 9人 (平成30年度対比 450.0% 7人増)

計 31人 (平成30年度対比 119.2% 5人増)

#### (4) 地域交流事業

積極的に周辺地域と交流を深め地域振興に貢献した。

- ① 小名浜まちづくり市民会議へ参画  
会員として会議やイベントに積極的に参画
- ② 小名浜港まつりへの協賛  
館内外の花火大会の観覧に配慮してイベントに貢献
- ③ ばんえつ発見の旅サポートの連携事業  
・磐越道沿線の12文化施設との連絡協議会  
・各館共通割引券作成、当館では772枚の利用
- ④ いわき ら・ら・ミュウ、小名浜美食ホテル、イオンモールとの連携  
・毎月1回、上記担当者との協議会を開催  
・上記3社と情報交換を密にし、相互にイベントへの協賛や協力

#### ア いわき ら・ら・ミュウ

・いわき ら・ら・ミュウが入館前売券を仕入れ、いわきら・ら・ミュウ  
内インフォメーションにて委託販売

一般 1,408人 (平成30年対比 281.6% 908人増)

小～高 243人 (平成30年対比 162.0% 93人増)

計 1,651人 (平成30年対比 254.0% 1,001人増)

- ⑤ 移動水族館専用車(アクアラバン)を活用した地域交流の推進  
県内外の文化施設での移動水族館開催  
・令和元年度実績  
出動回数(出展数) 4回 (平成30年度比 80.0% 1回減)  
見学者数 6,284人 (平成30年度比 80.6% 1,513人減)
- ⑥ 近隣動物園・水族館との連携  
栃木・茨城・群馬・福島の動物園・水族館との連携事業「ファイト9」  
に協力(令和元年度はいなわしろカワセミ水族館が事務局)

## 6 学習交流事業

### (1) 解説活動事業

子どもから大人まで多くの人々が、海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設をめざし、一般来館者を対象に次のような解説活動を実施した。

- ① バックヤードツアー  
当館のボランティアが展示水槽のキーパースペース、実験室、調餌室、サービスマンヤード、濾過槽、ホルマリン室を案内しながら、水族館の仕組みや飼育員の仕事について紹介した。（参加者数 22, 396名）
- ② ハンズオン解説  
アクアマリンえっぐのボランティアーズステーションにおいて、小名浜港で採集したプランクトンの観察や化石、標本などを手に取って観察できるハンズオン解説を行った。
- ③ アクアマリンえっぐワークショップ  
アクアマリンえっぐにて有料の工作体験として通年でワークショップを実施した。年度内に「ヒオウギガイのキーホルダー」作りや「サイコロカレンダーづくり」など内容を7回変更した。（参加者数 11, 206名）

## (2) 企画展開催事業

館内外における季節演出および催事等の実施

- ① ゴールデンウィークイベント  
平成31年4月27日（月）～5月6日（月）  
蛇の目ビーチ海開き、宝探し、大水槽潜水給餌「きらめくイワシの大水槽」
- ② 特別展「北国の金魚たち」  
平成31年4月27日（月）～5月6日（月）  
金魚のミニ即売会を同時開催  
蛇の目ビーチ海開き、宝探し、大水槽潜水給餌「きらめくイワシの大水槽」
- ③ 蛇の目ビーチで潮干狩り  
令和元年5月11日（土）～26日（日）の土曜日・日曜日  
5月25日（土）、26日は解説発生のため代替イベント実施。
- ④ 生き物の七夕飾り  
令和元年6月29日（土）～8月8日（木）
- ⑤ 夏休みイベント  
令和元年7月13日（土）～9月1日（日）  
夏休みの自由研究企画「アクアマリン珍生物図鑑」「珍生物のおはなし会」、  
「アクアマリンこども相談室」を実施。
- ⑥ 金魚まつり&おたのしみ縁日  
令和元年8月11日（日）～8月12日（月）
- ⑦ 小名浜国際環境芸術祭2019  
小名浜国際環境芸術祭は、2003年に開催されてから16回目を迎えた。  
大漁旗アート展を中心に、海をテーマとした様々な芸術作品を展示した。  
開催期間：令和元年9月21日（土）～11月17日（日）  
○第12回小名浜国際大漁旗アート展 入賞作品展  
期間：令和元年9月21日（土）～11月17日（日）

○大漁旗アート・アーティストの原画展

期間：令和元年9月21日（土）～11月17日（日）

○キッズアート展 プラウお コンテスト

期間：令和元年9月21日（土）～11月17日（日）

○海からの贈り物 シーボーンアート展

「ウミガメが届ける未来へのメッセージ」

期間：令和元年9月22日（日）～11月17日（日）

協力：NPO 日本渚の美術協会

○ 第47回我ら海の子展（巡回絵画展）

主催：一般財団法人サークルクラブ協会

公益社団法人日本海洋少年団連盟

期間：令和元年10月12日（土）～11月10日（日）

○俳句の季（とき）コンテスト

期間：令和元年10月19日（水）～11月17日（日）

○海の男の盆栽展

協力：小名浜盆栽研究会

期間：令和元年10月30日（水）～11月5日（火）

⑧ ギョスプレハロウィーン

開催期間：令和元年10月5日（土）～27日（日）の土日祝日、  
および10月31日

海の生き物をイメージした衣装の貸し出し等

⑨ アクアマリンクリスマス

開催期間：令和元年10月5日（土）～27日（日）の土日祝日、  
および10月31日

海の生き物をイメージした衣装の貸し出し等

⑩ アクアマリンのお正月

開催期間：令和元年12月28日（土）～令和2年1月13日（月）

「干支の生き物展～子～」、巨大カルタ大会、恵比須様の鯛釣り等

⑪ 那須どうぶつ王国ふれあい動物園

開催期間：令和元年12月31日（火）～令和2年1月3日（金）

アクアマリンふくしまのイベントとして、那須どうぶつ王国の移動動物園を  
開催した。（開催場所：小名浜美食ホテル2号棟「潮目交流館」）

⑫ パネル展「一挙終結！！オロロンをまもる仲間たち」

開催期間：令和元年12月28日（土）～令和2年2月29日（土）

⑬ アクアマリンのひな祭り

令和2年2月8日（土）～3月3日（日）

ちりめん細工教室「ままや」つるし飾りの展示とちりめん細工体験教室を実施

⑭ スプリングフェスティバル

令和2年3月20日（金）～4月5日（日）

桜金魚と春の花々の展示

(3) 展示事業

魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板、情報ソフト等の更新を随時行い、図書や映像ソフト等の充実にも努めた。

- ① 放射線に対する基礎的な情報や館内の環境放射線量、海水中の放射性物質などの情報を提供するとともに、当館が行っている調査研究について展示を行った。
- ② オセアニックギャラリーでは「環境水族館からのメッセージ」「漁場から食卓まで」「あぶくま東縁の地質生物」「弁財天ウナギプロジェクト」「よみがえれ木戸川」「採集する。研究する。展示する。」について展示した。
- ③ 2階ホワイエの図書コーナー、えっぐのキッズコーナー、ボランティアーズステーションの図書やぬいぐるみ、観察用機材の管理を行った。
- ④ 柴犬（縄文犬）の展示（アクアマリンえっぐ）を行うと共に、血統を管理する天然記念物柴犬保存会の展覧会をえっぐの森で開催した。
- ⑤ うみう展示（アクアマリンえっぐ）いわき照島生息地天然記念物指定
- ⑥ わくわく縄文の里において、日本産淡水生物、アカネズミ、コシジロヤマドリ、オオコノハズク、ホンドタヌキの展示を行った。
- ⑦ おまつり広場に設置した伝馬船工房において、伝馬船「地球2号」を製作した。
- ⑧ 炭焼き窯「たろうがま」を製作し、3回の炭焼きを行った。

(4) 学校教育関連事業

① ガイダンス・館内学習

当館に来館した学校団体を対象に施設の展示概要の紹介と館利用上の注意点等を解説するガイダンスを実施した。また、当館に来館した学校団体を対象に研修室などで授業を行った。当館の釣り堀を利用した命の教育、獣医の仕事の紹介、震災からの復興などをテーマとした学習を実施した。

(112回実施、対象者数8,350名)

② 館外学習（ゲストティーチャー）

当財団の職員を学校へ派遣し、学校で授業を行った。

(4校、対象者91名)

③ 移動水族館の実施

移動水族館専用車（アクアラバン）による生物の観察と標本や化石などを手に取って観察をするハンズオン展示、レクチャーを行う移動水族館を実施した。(27校、対象者数2,534名)

④ 職場体験・インターンシップ・博物館学芸員実習の実施

中学校、高等学校、大学の生徒・学生を対象に、業務体験をととして職業観・勤労観の習得や進路指導の一環を目的とした実習を実施した。

ア 中学校・高等学校生徒の職場体験 12回実施 対象生徒数33名

イ 大学生のインターンシップ、高校生のジュニアインターンシップ  
3回実施 対象生徒、学生数 7名

⑤ 館内学習支援事業

いわき市内の小学校を対象に当館のバスで児童を送迎し、館内において学習活動を実施した。(11回実施、対象者数247名)

⑥ 教員セミナー、教員研修の実施

8月1日、2日の2日間、県内の教員を集めて、当財団が実施している館内学習を体験する教職員セミナーを開催し、59名が参加した。

(5) 情報提供事業

① 情報コーナー

情報コーナーでは、国内外の友好園館の展示を行った。

② インターネットによる情報提供

ホームページを更新することにより、様々な情報提供を行った。最新生き物情報欄では生物の搬入搬出や繁殖出産の情報を、ニュース欄では季節ごとのイベントや企画展の詳細、参加体験プログラムの募集等の情報を発信した。

また、SNSを活用して、生き物の搬入や新規展示、生き物の様子など展示生物に関する情報のほか、イベントの実施状況など、タイムリーな情報提供をほぼ毎日行った。

③ 機関誌の発行

水族館の活動内容をはじめ、生物や海に関する様々な情報を掲載した機関誌「AMF NEWS」を年4回発行した(発行部数 5,000部/回)。

④ プレスリリース

テレビ、雑誌等の取材協力を積極的に行うとともに、年間86件の投げ込みを実施した(※荒天や新型コロナウイルスによるイベント中止や臨時休館の案内は6件)。テレビの取材放映が約30件、新聞の掲載は330件あった。

7 スクール開催事業

海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高めることを目的に、各種スクールを開催した。

(1) スクールの開催

事前募集を行った参加者を対象として様々な体験活動を提供するスクールを開催した。

・キッズプログラム：10回136名

・ナイトプログラム(宿泊プログラム)：4回118名

(2) 炭火焼体験、かつお節削り体験

子ども漁業博物館「うおのぞき」の命の体験プログラムとして、ホタテガイやハマグリ、サザエなどの活きた魚介類を炭火で焼いて食べる炭火焼体験と昔ながらの手動の製造機で缶詰をつくる体験、かつお節を削る体験を提供した。

(3) 釣り体験

アクアマリンえっぐの釣り場において魚を釣って調理し、食べるという体験を提供し、子どもたちに命の教育の機会を提供した。(参加者数 19,082組)

## 8 ボランティア等活動事業

アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進した。また、ボランティア活動者に対しては、資質向上のための専門研修を継続的に行い、本施設を自らの学習・実践の場として積極的に提供した。

第1期～第21期ボランティア更新者	206名
第22期新規ボランティア登録者	10名
登録者数(令和2年3月31日現在)	216名

## 9 施設管理事業

### (1) 修繕工事

#### ① 電気設備工事

ア 非常時における迅速な対応のため、取水棟、濾過送水棟に異常が発生した際の信号を施設管理担当の携帯電話へ自動通報するシステムの新設を行った。

イ 作業効率向上のため、これまで各子で捜査していた館内照明をグループ化し、タイマーによる自動制御のシステムを新設した。

#### ② 土木工事

ア B I O B I Oカッパの里園路、エントランスデッキ他の地盤沈下対応として、埋戻し及び舗装の更新を行った。

イ アクアマリンえっぐと蛇の目ビーチ間スロープの地盤沈下が著しい基礎打ち直し及び経年劣化による腐食が著しいデッキの貼替を行った。

#### ③ 設備工事

ア 蛇の目ビーチ足洗い場の移設、新足洗い場デッキの増設を行った。

イ 経年劣化が著しいシリンダー錠の更新に併せ、非効率的な各所鍵の統一を行った。

### (2) 省エネルギー・光熱費対策

ア 熱源機の運転調整と季節に応じた設定水温変更、ピークカットによるデマンド値管理により、契約電力を1,350kwから1,200kwに引き下げ、電力使用量および光熱費を引き下げた。

イ 屋外緑地帯の散水の一部、B I O B I Oカッパの里の注水を工業用水へ切り替え及び展示水槽への注水量の管理徹底により水道使用量と光熱費を削減した。

### (3) 主要維持管理施設

主要維持管理施設は、次のとおり。

#### ① いわき市小名浜字辰巳町地内

ア ふくしま海洋科学館

・本館等敷地面積	56,189.52m <sup>2</sup>
・本館延床面積	12,935.11m <sup>2</sup>
・水生生物保全センター延床面積	925.09m <sup>2</sup>
・子ども体験館「アクアマリンえっぐ」延床面積	1,266.70m <sup>2</sup>
・屋外トイレ面積	106.18m <sup>2</sup>

・ 温室面積		52.54㎡
・ わくわく里山・縄文の里関連施設延床面積		1,509.56㎡
イ 駐車場関係		
・ 施設外駐車場面積		12,093.81㎡
② いわき市小名浜下神白字松下地内		
ア 海水取水・送水施設		
・ 取水ポンプ棟延床面積	1棟	84.43㎡
・ ろ過送水棟延床面積	1棟	180.04㎡
・ 取水管（管径 350mm）		91.10m×2条
・ 揚水管（管径 300/350mm）		146.00m
・ 送水管（管径 250mm）		2,885.04m
③ 和歌山県串本町		
ア 水生生物保全センター分館		
・ 延床面積		180.00㎡

(4) 来館者用駐車場の確保

繁忙期に臨時駐車場を確保し、安全かつスムーズな整理誘導を行った。  
駐車場は次のとおりである。

① 常時使用駐車場		
・ オアシス駐車場	282台	（うち身障者用5台、バス15台）
・ 公共駐車場	452台	（うち身障者用17台）
② 臨時駐車場	977台	（小名浜港湾建設事務所から随時借用する）
* 駐車場合計	1,711台	

## 10 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館管理運営事業

猪苗代町緑の村管理センター、釣堀・養魚鑑賞池、淡水魚館の3施設の総称を「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」として、福島県内及び猪苗代湖の希少淡水生物の保全をテーマに統括的な施設運営を図り、参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動に関する事業を展開した。

また、現淡水魚館内に希少淡水生物繁殖保全水槽を設置し、福島県内の希少淡水魚、は虫類、両生類、鳥類、哺乳類等の保全活動と調査研究を行い、情報発信に努めた。

(1) 施設の概要

○猪苗代町大字長田字東中丸地内

アクアマリンいなわしろカワセミ水族館

猪苗代町緑の村管理センター		736.00㎡
猪苗代町緑の村釣堀、養魚鑑賞池	10,	000.00㎡
猪苗代町淡水魚館		605.10㎡

(2) 展示事業

- ① 福島県の淡水生物の展示
- ② 猪苗代情報パネル展示
- ③ カワセミ、カワガラス展示
- ④ 希少淡水魚繁殖保全水槽

- ⑤ 県内に生息するゲンゴロウを始めとする水生昆虫の展示水槽
- ⑥ 福島県の両生類の展示水槽
- ⑦ ユーラシアカワウソの展示
- ⑧ カワネズミの展示
- ⑨ 国外・国内外来種の淡水水生生物の展示
- ⑩ 企画展（雑木林の昆虫酒場、苔の箱庭展、なんでも猪苗代ほか）

### （３）体験プログラム

- ① 釣り体験の実施、館内観察オリエンテーリングの実施
- ② 参加体験型（小川水槽）展示
- ③ 塗り絵コーナー、オリジナルエコバック作り、起き上がり小法師絵付け体験の他ワークショップコーナーの設置
- ④ 木育キッズコーナー「森のこぼこ」

### （４）情報発信

各種展示及びホームページや Twitter 等の SNS を通じて、猪苗代湖の保全、希少淡水魚の繁殖・保全を来館者に対して情報発信した。

### （５）ボランティア活動

- ① 釣り堀運営支援
- ② 館内解説補助
- ③ 来館者の参加体験支援

## Ⅱ 収益事業

### 1 ミュージアムショップ運営

店舗名称 ウミノス・ゴンベッサ・アクアマリンショップ JOHMON  
3店舗にて商品販売。

売上額 182,372,013円

（平成30年度実績185,202,822円 前年度比98.5%）

### 2 レストランの運営

おいしい水族館「HAPPY OCEANS」をテーマとした資源量豊富な漁業資源の食材をオリジナルシーフードメニューとして開発し提供した。

#### （１）レストランアクアクロス

売上額 42,932,500円

（平成30年度実績46,095,110円 前年度比93.1%）

#### （２）露店 The Roten Café Breeze

繁忙期に、テラス軽食販売を実施。

委託料収入 910,000円

（平成30年度実績979,324円、前年度比 92.9%）

(3) 寿司処「潮目の海HAPPY OCEANS」

資源の持続的な利用をテーマに大水槽前で寿司の提供を行った。

委託料収入970,168円

(平成30年度実績832,261円 前年度比116.6%)

**3 イブニングイベント事業**

雑魚を美味しく食べる会(名称・雑魚の会)

雑魚のブランド化及び地域交流の場を趣旨として年12回開催。

(参加者数計293人)

**4 アクアマリンいなわしろカワセミ水族館のショップ開設**

飼育展示生物をモチーフにオリジナル商品をカワセミ館で開発販売し、収入確保に努めた。

売上額7,740,600円

(平成30年度実績7,427,620円前年度比104.2%)